

## 長万部温泉・大成館の「7月の普賢象」の育樹・その2

### 1 2021年7月に気づいた「7月の普賢象」

長万部温泉は、長万部町市街地の中央に位置し、JR函館本線の線路の北側にあります。1955年（昭和30年）に天然ガスの試掘中に温泉が湧出したことに始まる「高張性弱アルカリ高温泉」の温泉です。

2021年5月21日に、この長万部温泉の「温泉旅館大成館」（営業主 高井優一氏）に宿泊していた当社樹木医の木戸口和裕は、庭に1本の桜「普賢象」があることに気づきました。「普賢象」は室町時代からあるとも言われているオシマザクラ系の八重桜の名品です。大成館の普賢象は、樹高5m程度で、横枝が発達し、花色は最初、薄紅色でやがて白色に変化していく桜で、非常に上品な風情のある桜となっています。

2021年7月1日に大成館を再訪すると、「普賢象」の花がざっと30輪程度まばらに咲いているのには、本当に驚きました。7月に入っても、1輪、2輪の「遅咲き」であればともかく、30輪も花が咲いているのは、明らかに「本咲き」です。これまで「7月の普賢象」に出会ったことはありませんでした。

長万部温泉からの排熱もあるはずで、割に暖かい環境なのではと考え、はじめは長万部温泉と「7月の普賢象」は、極めて奇妙な取り合わせのようにも思えました。

この2021年を皮切りに、高井優一氏に開花期間の記録をお願いしたところ、次のとおりとなっています。

- ・2021年：5月15日頃から7月11日まで
- ・2022年：5月15日から7月13日まで
- ・2023年：5月11日から7月1日まで



雌蕊の葉化、花卉の一部緑色化した普賢象 2022.07.06

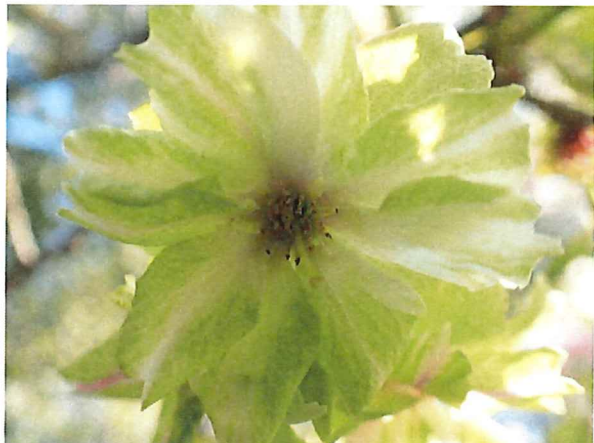
### 2 花卉の緑色化など

2022年7月6日の訪問では、この桜の雌蕊の「葉化」とともに、花卉の一部が緑色化したものも見られました。「普賢象」の雌蕊の「葉化」は普通に見られる現象で、このため、「普賢象」は、種子を付けない栽培品種で、すなわち、これ以上品種改良が困難な桜、いわば究極の桜となっています。接木などで増殖して受け継いできた栽培品種なのです。

一方、花卉の一部緑色化の方はよくわかりません。緑色の桜である「御衣黄（ぎょいこう）」では、花卉が緑色であ

り、DNA分析では同一で、枝変わりの関係にある「鬱金（うこん）」でも、花卉が黄色だけでなく、一部緑色のものも見られるので、あまり気に留めていませんでした。

花卉の「葉化」と捉えて考えてみると、①葉が花卉に変化したものであるならば、「先祖帰り」現象なのか、②「御衣黄」の遺伝子に近いものを有しているのではないか、③花卉を緑色にしてまで光合成を行わなければならないほど、樹体が危機に瀕しているのではないか、④開花期間の終期に見られる一種の奇形現象ではないか、などと妄想するほど興味は尽きません。



「御衣黄」

北海道松前公園



「鬱金」

北海道松前公園

### 3 2023年までの育樹

#### ①2021年

5月21日、木戸口は、この桜の美観上から枯損枝除去を行いました。この庭の一部で野菜づくりが行われているため、この桜の施肥は十分であると思われました。

#### ②2022年

7月6日、根の区域に、土壌改良として、穴あけ器によりエアレーションし、フルボ酸の植物活性剤の固形化資材「フジミン®Forest」の散布を行いました。

#### ③2023年

5月2日に土壌改良として、穴あけ器によりエアレーションし、「フジミン®Forest」を500g程度、根の分布域に散布しました。

11月16日に、土壌改良と施肥が必要と考え、穴あけ器によりエアレーションし、「フジミン®Forest」を500g程度のほかに、砂川産堆肥10L程度、根の分布域に散布しました。



エアレーション

2023.11.16



砂川産堆肥及びフジミン®Forest 2023.11.16

#### 4 気象データからの「7月の普賢象」

「7月の普賢象」が見られる理由は、長万部町の気候にあります。同町は渡島半島北部黒松内低地帯の噴火湾側に位置し、夏は南から冷たい風と海霧が流れ込む特殊な気候にあるからです。

一方、北海道最南端の白神岬のある松前町は、「染井吉野」の開花という指標の桜前線が北海道に最も早く上陸するほど温暖な気候の町で、冷涼な気候の長万部町と好対照な町です。

このため、両者を比較して考察することにしました。

表-1 長万部町と松前町の4月-7月の気温の比較

		長万部町	松前町	長万部町	松前町	長万部町	松前町	長万部町	松前町
		日平均気温(°C)		20°C以上の日数		25°C以上の日数		30°C以上の日数	
2019	4月	5.2	8.0	1	0	0	0	0	0
	5月	11.6	14.5	8	10	1	1	0	0
	6月	15.0	17.2	5	21	2	0	0	0
	7月	18.3	21.0	19	30	5	11	1	0
2020	4月	4.7	7.4	0	0	0	0	0	0
	5月	10.7	12.3	5	2	1	0	0	0
	6月	15.7	17.7	13	21	3	0	0	0
	7月	18.8	20.6	24	31	4	10	0	0
2021	4月	5.6	8.5	0	0	0	0	0	0
	5月	10.7	13.0	4	2	0	0	0	0
	6月	15.4	17.7	13	22	2	2	0	0
	7月	20.5	23.1	23	30	11	23	5	5
2022	4月	6.1	9.2	0	1	0	0	0	0
	5月	10.4	13.7	2	6	0	1	0	0
	6月	14.8	16.5	10	16	1	1	0	0
	7月	20.4	22.1	28	31	10	16	1	0
2023	4月	6.9	9.4	0	0	0	0	0	0
	5月	11.3	13.3	7	3	0	0	0	0
	6月	15.8	18.7	11	26	0	3	0	0
	7月	21.4	22.8	29	31	13	21	2	1

表-1 では、長万部町と松前町の 2019 年から 2023 年の 5 カ年を対象に、その 4 月から 7 月までの月別日平均気温（1時から24時までの毎正時24回の観測値の平均で、それらの月平均）、最高気温 20°C以上の日数、最高気温 25°C以上の日数、最高気温 30°C以上の日数を示しています。

表-1 から読み取れることは次のとおり。

- ①長万部、松前町ともに 2023 年の 4 月から 7 月までの月別日平均気温は、5 カ年の中で高い年であったこと
- ②長万部、松前町ともに 2020 年 4 月の月別日平均気温は、5 カ年の中で低い年であったこと
- ③長万部、松前町ともに 2019 年 5 月の月別日平均気温は、5 カ年の中で高い年であったこと
- ④長万部と松前町の 5 カ年の 4 月の月別日平均気温の差は、2.5°Cから 3.1°Cと松前町の方が高く、月別ではその差が最も大きく、それだけ長万部町の 4 月は寒く、普賢象の開花自体が遅いことを示していること
- ⑤長万部町、松前町での 5 カ年の 4 月の月別日平均気温は、上記②で記載した 2020 年を除くと上昇傾向であり、長

万部町の普賢象の開花が早まる傾向であること、そして松前町の「染井吉野」の開花宣言も早まる傾向であること

⑥長万部町では5カ年の5月の月別日平均気温の最高と最低の差は、 $1.2^{\circ}\text{C}$  ( $10.4^{\circ}\text{C}-11.6^{\circ}\text{C}$ )、同じく6月の差は $1.0^{\circ}\text{C}$  ( $14.8^{\circ}\text{C}-15.8^{\circ}\text{C}$ )と、極めて安定した低い気温となっていること。同じく、松前町との比較では、5月は $1.6^{\circ}\text{C}$ から $3.3^{\circ}\text{C}$ までの範囲で、6月は $1.7^{\circ}\text{C}$ から $2.9^{\circ}\text{C}$ までの範囲で、低くなっていること

⑦長万部では5カ年の7月の月別日平均気温は上昇傾向で、2019年と2023年の比較では $3.1^{\circ}\text{C}$  ( $18.4^{\circ}\text{C}-21.4^{\circ}\text{C}$ )も上昇していること。このことを反映して、7月の $20^{\circ}\text{C}$ 以上の日数、 $25^{\circ}\text{C}$ 以上の日数ともに増加傾向であること、そして、このことは、「普賢象」の花が7月に入ると高温のため、早く散ってしまいやすくなることを示していること

⑧上記から長万部町の7月は「常春」の一部とは言えなくなっているものの、 $30^{\circ}\text{C}$ 以上の日数は増えておらず、ブナとミズナラの混交林のある「避暑地に適した町」には変わりがないこと

表-2 「7月の普賢象」の開花日数と長万部町の日平均気温等との関係

開花期間	開花日数	5月-6月の日平均気温の合計	開花期間中 $25^{\circ}\text{C}$ 以上の日数	開花期間中 $30^{\circ}\text{C}$ 以上の日数
2021.05.15頃~2021.07.11	57	26.1	2	0
2022.05.15~2021.07.13	59	25.2	4	1
2023.05.11~2021.07.01	51	27.1	0	0

表-2は、3年分のデータではあるが、「7月の普賢象」の開花期間、開花日数、「5月-6月の月別日平均気温の合計」、開花期間中の $25^{\circ}\text{C}$ 以上の日数、 $30^{\circ}\text{C}$ 以上の日数を示しています。これから読み取れることは次のとおり。

⑨2023年の開花期間の終日は、7月1日であり、上記⑦から、今後は6月下旬の開花となりうる可能性があること

⑩「5月-6月の日平均気温の合計」及び上記⑨から、「7月の普賢象」は、この時期の安定した気温の低さに支えられていることが、開花期間との関係から明らかであること

⑪開花期間中に、「5月-6月の日平均気温の合計」が低ければ、 $25^{\circ}\text{C}$ 以上の日や $30^{\circ}\text{C}$ 以上の日が数日あっても少し花持ちはするが、「5月-6月の日平均気温の合計」が高くなれば、 $25^{\circ}\text{C}$ 以上の日や $30^{\circ}\text{C}$ 以上の日が無くても、花は散ってしまうこと

表-3 長万部町と松前町の5月-6月の風の比較

		長万部町	松前町	長万部町	松前町
		最大瞬間風速 $15\text{m/s}$ の日数		最大風速 $10\text{m/s}$ の日数	
2019	5月	1	2	0	1
	6月	1	3	0	3
2020	5月	2	6	1	6
	6月	1	3	0	1
2021	5月	2	6	0	4
	6月	1	0	0	0
2022	5月	3	6	0	3
	6月	2	5	0	3
2023	5月	2	3	1	2
	6月	1	2	0	0

桜の花が散るのには、開花後の気温だけでなく、風によってもあつと言う間に散ることがあります。このため、長万部町と松前町の最大瞬間風速（0.25秒間隔で測定した風速値の3秒間平均値の最大値）15m/s以上の日数、最大風速（10分間平均風速の最大値）10m/s以上の日数で、表-3では比較しています。

今回の強い風と思われる数値がメルクマールとして、適切かどうかはわかりませんが、これによって表-3から読みとれることは次のとおり。

⑫長万部町の5月と6月の「最大瞬間風速15m/s以上の日数」、「最大風速10m/s以上の日数」では、5月よりも6月の方が少ない傾向で、このことが特に6月の花持ちの良さにつながっていると思われること

⑬長万部町の5月と6月の「最大瞬間風速15m/s以上の日数」、「最大風速10m/s以上の日数」では、松前町の同時期よりも少なく、花持ちの良さを示していること

## 5 終わりに

今回の5カ年の春期の気象データからの読み取りから、「7月の普賢象」を支えているのは、主に5月、6月の安定した低い気温にあることがわかりました。

当該桜を「7月の普賢象」と銘打ちましたが、今後は「6月下旬の普賢象」、或いは「6月中旬の普賢象」となるかもしれません。

このような気温の上昇傾向が続く中でも、長万部町は、「普賢象」だけでなく、「関山」、「奈良八重桜」、「紅笠」、「梅護寺数珠掛桜」、「親鸞上人数珠掛桜」などの遅咲きの桜を集植すれば、6月中旬でも鑑賞することができる名所となる可能性を持っています。

北海道新幹線の駅ができる予定の長万部町にとって、冷涼な気候による「永すぎた春」は、地域のかげがえのない財産の一つであると思われます。